

2026 年 4 月 1 日

学校法人 愛甲学院大阪

愛甲農業科学専門学校

愛甲農業科学専門学校 情報提供資料

専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドラインに基づき、愛甲農業科学専門学校の情報を、以下のとおり提供いたします。

1. 学校の概要、目標

(1) 概要

【 法人名称 】	学校法人 愛甲学院大阪	理事長 西村公男
【 学校名称 】	愛甲農業科学専門学校	校 長 西村公男
【 所 在 地 】	法人本部 〒531-0041 大阪市北区天神橋7丁目15番1号 TEL 06-6356-5901	
	学 校	同 上
【 U R L 】	https://aico.ac.jp/agri/	
【 創 立 】	平成28年(2016年)4月1日	
【 グリープ 】	学校法人 愛甲学院(神戸市)	

(2) 学校の教育理念・目的・育成人材像

① 教育理念

次世代農業の担い手の道を、新しい農業のカタチである水耕栽培で切り拓く

② 目 的

農業分野において、安全で衛生的な野菜・果物を安定的に提供できる水耕栽培の技術者を育成することにより、我が国の食、食育、調理の向上、発展に寄与することを目的としています。

③ 特 色

気候変動や農地減少といった課題に対し、人工光型植物工場の活用の動きが強まっています。その軸となる水耕栽培の技術習得を中心に、次世代農業を実践的に学ぶことができます。

具体的には、水耕栽培に特化した専門学校として水耕栽培を装置やLED等の機材、室温・湿度・養液濃度などの環境管理、ITを活用した環境制御、農業ビジネス等を学び、即戦力となる人材を養成する専門学校です。

また、最近では植物の水耕栽培と魚の養殖を組み合わせた「究極のエコ農法」といわれ世界的に注目を集める「アクアポニックス」の仕組みと、その管理方法を学ぶこともできます。

④ 育成人材像《デュプロマ・ポリシー》

次に掲げるデュプロマ・ポリシーに基づき、以下の能力を身に付け、学則に定める基準を満たした学生に卒業を認めます。

- (a) 新しい農業のカタチである水耕栽培で切り拓くために、真摯に取り組んだことが認められる人
- (b) 自分のための学びをとめず、実践を通じてレベルアップを目指せると認められる人
- (c) 価値観や感性の異なる様々な人たちを理解し、協働できると認められる人
- (d) マナーやコミュニケーションなどの、社会人としての基礎力を身に付け、社会への貢献が期待できる人

2. 設置学科の教育

(1) 設置学科 システム栽培学科 入学定員：40 名 総定員：80 名

気候変動、農地減少や農業従事者の減少に伴う労働力不足などの課題を現実的に解決する新たな生産の場が「植物工場」です。人口光型植物工場は、その高度な技術により栽培環境を任意に設定する設備能力を備えています。その設備能力を最大限まで引き出し、野菜の持つ生育特性を理解し、最適に育成させる環境設定を見いだせる発想やスキルを備えた人材が求められています。

システム栽培学科では、この根幹となる水耕栽培の技術習得、そして「生業」の教育を進め、以下の内容を意識して教育を行っています。

- ① さまざまな装置を設計・導入し、運用方法を工夫することで最適な栽培環境を整える。
- ② 栽培を通して様々なデータを収集・利用し、栽培へフィードバックする。
- ③ 育てた野菜と向き合い、消費者のニーズに合わせて販売する。

(2) 設置コース

令和8年度（2026年度）より、システム栽培学科に以下の3コースを設置し、システム栽培に関する知識に各コースの特色ある授業科目をプラスすることにより、専門性の幅を拡大し水耕栽培のスペシャリストと実社会で求められるゼネラリストとしての知識習得を目指します。

① 栽培実践コース

様々な水耕栽培野菜に適した栽培環境を整えるプロを目指すコースです。

植物工場など葉菜類の生産施設をはじめ、果菜類などを生産するハウスや温室を中心とした太陽光利用型の水耕栽培施設、イチゴ農園など養液土耕による生産施設などで、主に生産管理に従事する業務を想定したコースです。

② 農業×ITコース

IT技術で農業現場の課題を解決する実践的なエンジニアを目指せるコースです。

自動・半自動制御された植物工場や園芸施設などで、スマート農業エンジニアとして設備管理業務に従事することを目指します。農業の生産現場で、エンジニア性を持って栽培管理を行う業務、これらスマート農業を導入しようとする現場で、システム提案ができる設備管理者を想定したコースです。

③ 農業ビジネスコース

マーケティングと会計の知識で将来は農園の独立を目指すコースです。

野菜の販売営業企画などのマーケティングについての知識と、多くの販売実習で培ったコミュニケーション能力を活かせる業務を想定しています。また、品質の優れた野菜についての見識を持つ者として、販売企画から仕入、販売まで活躍できる人材を目指すコースです。

(3) 入学資格

入学を志願することのできる者は、次の各号の1に該当する者です。

- ① 高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者
- ② 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ④ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学

資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）

- ⑦ 学校教育法第 90 条第 2 項の規定により大学に入学した者であつて、高等学校卒業程度認定審査規則（令和 4 年文部科学省令第 18 号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
- ⑧ 学校教育法第 90 条第 2 項の規定により大学に入学した者であつて、当該者をその後に入学させる専修学校において、専修学校における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 専修学校において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 18 歳に達した者

（4）受入方針 《アドミSSION・ポリシー》

次に掲げるアドミSSION・ポリシーに基づき、入学希望者を募っています。

- ① 農業や水耕栽培に興味関心がある方
- ② 協調性をもって協力してモノづくりをすることが好きな方
- ③ 目標を持って努力を継続できる方
- ④ 敬意や感謝をもって人とコミュニケーションができる方
- ⑤ マナーやルールを守り、規則正しい生活ができる方

（5）教育課程 《カリキュラム・ポリシー》

次に掲げるカリキュラム・ポリシーに基づき、水耕栽培を通じて社会に貢献できる人材を育成します。

- ① 幅広い分野（農業・工学・経営）について、実習・講義・演習を通じて、専門的な知識やスキルを身に付けるための教育課程を編成する。
- ② 教育課程の編成においては、基礎から応用、そしてより実践的な知識の修得と段階的に成長できるように履修科目を配置する。
- ③ 実習においては、基礎から応用そして課題研究と展開し、課題研究では自ら選択した植物を自らの責任において栽培し、自主性と責任性を育成する。
- ④ 専門的な知識や技術の修得だけではなく、集団の中で必要となるマナーやコミュニケーションなどの社会人として必要な基礎力を育成する。

（6）卒業の要件と称号の付与

- ① 学則に定める授業科目の成績評価により、必要な単位を取得した者について、教職員会議の議を経て校長が課程修了を認定します。
- ② 本校を卒業するのに必要な単位数は、次のとおりです。
システム栽培学科 62 単位以上
- ③ 所定の修業年限以上を在籍し、課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与します。
- ④ 農業専門課程システム栽培学科を修了した者には、学校教育法第 131 条の 2 及び学校教育法施行規則 186 条に基づき、専門士（農業専門課程）の称号を授与します。

3. 教職員

（1）教員数

- ① 専任教員 4 名
- ② 兼務教員 1 名
- ③ 特別講師 2 名

(2) 教職員の組織

- ① 学 校 長 1 名
- ② 副 校 長 1 名
- ③ 教 員 3 名
- ④ 講 師 1 名
- ⑤ 特別講師 2 名
- ⑥ 事 務 員 2 名

4. キャリア教育と実践的職業教育

(1) キャリア教育

一人ひとりのキャリアアップを尊重し、徹底した個別指導で希望する職種に就けるようサポートしています。主な内容は以下のとおりです。

① 就職サポートカレンダー

- (a) 1 年生 4 月：就職の心構え（入学後のオリエンテーション時に説明）
- (b) 1 年生 10 月：第 1 回進路希望調査
- (c) 1 年生 1 月：履歴書の書き方（自己PR・志望動機の作成）
- (d) 1 年生 2 月：初級面接指導（面接マナー・立ち居振る舞い）
- (e) 1 年生 3 月：インターンシップ参加（以降 随時）
- (f) 2 年生 4 月：宿泊農業体験研修（2 泊 3 日）岡山県真庭市
中級面接指導（自己PR・志望動機を含めた面接トーク指導）
- (g) 2 年生 5 月：個別面接指導（以降 応募企業が決定した都度）
- (h) 2 年生 1 月：入社準備（社会人としての心構え等）

② 就職実績

(a) 農業関連企業

株式会社野菜工房 株式会社スプレッド 医療法人神明会(ファイトケミカル食品)
鐘山グリーンテック株式会社 株式会社八百一の郷 株式会社オスミックアグリ茨城
エボルオ株式会社(かぐや農園) 河西いちご園 グランベリー八尾
株式会社いちご研究室 淡路島オリーブグローワーズ株式会社 リングテック株式会社
岡山県真庭市職員（地域おこし協力隊） 株式会社ヨシムラファーム
一般社団法人W a i W a i 等

(b) 食品加工・販売関連企業

株式会社みやまえ 株式会社丸光 宝産業株式会社 大阪いずみ市民生活協同組合
関西トランスウェイ株式会社 株式会社PFC 等

(c) 農業・植物工場機材関連企業

伊東電機株式会社 等

(d) その他

大信鋼業株式会社 住吉冷蔵株式会社 松井記念病院 株式会社エイジェック
株式会社ティーエス 株式会社ATS 高千代産業株式会社 等

(2) 実践的職業教育

実践的職業教育の一環として実習を多く取り入れています。1 年次の基本的な水耕栽培実習から徐々に難易度を上げ、栄養素を高め美味しい野菜づくりを目指し多彩な実習で実践力を磨きます。

① 栽培実習スケジュール

- (a) 1年生前期：基礎栽培実習・・・水耕栽培の基礎をレタスの栽培実習にて習得
- (b) 1年生後期：初級栽培実習・・・様々な葉菜類の栽培を通じて栽培技術を磨く
※栄養価が高く美味しい野菜作りの栽培技術を習得
- (c) 2年生前期：中級栽培実習・・・果菜類の栽培を通じて栽培技術をさらに磨く
※高糖度トマト、ピーマンやシシトウ等の栽培に挑戦
：課題研究実習・・・学生が研究課題とする野菜栽培に挑戦
※イチゴ、ワサビやジャガイモ等の栽培に挑戦
- (d) 2年生後期：上級栽培実習・・・難易度の高い野菜の栽培に挑戦

② 野菜栽培以外の実習

- (a) アクアポニックス実習・・・・・・植物の水耕栽培と魚の養殖を組み合わせた農法を学ぶ
- (b) ファーマーズマーケット・・・・水耕栽培野菜の校内での販売会（年3回）
- (c) 愛甲マルシェ・・・・・・水耕栽培野菜の郊外近隣での販売会（月1回～2回）
- (d) コンピュータ実習・・・・・・各種データ収集に必要なシステム開発と、収集したデータを活用した農業の自動化や可視化等の手法を学ぶ
- (e) CAD実習・・・・・・栽培装置を、CADを使って設計する技術を学ぶ
- (f) 水耕栽培装置製作・・・・・・自分か栽培する野菜に合った装置をCADの設計に基づき製作する

③ 実習環境

栽培する野菜によって、適切な栽培環境は異なります。それぞれの野菜に合った室温や水温設定を行えるように、様々な栽培実習室を揃えています。その他栽培実習以外の実習に対応する実習室も設置しています。

- (a) アクアポニックス研究室
- (b) 水耕栽培実習室Ⅰ
- (c) 植物工場研究室
- (d) 水耕栽培実習室Ⅱ
- (e) コンピュータルーム
- (f) 栽培装置製作室

④ インターンシップ

学生が希望する職種について、実際の作業内容を知るためにも、インターンシップへの参加を積極的に促しています。参加することで、やりたい仕事を体験し就職のミスマッチを防ぐとともに、仕事の魅力を体感することができます。

なお、所定の手続きを経て必要時間数以上参加した場合は単位が取得できます。

(3) 産官学連携

農園や植物工場と提携し相互に現場見学を行い、設備や栽培野菜などの情報交換を行っています。これらにより得られた情報を教育に取り込み、より実社会で通用する産業教育に努めています。

また、インターンシップを通じて情報交換を行い、企業が求める人物像を伺い学生の社会人教育に繋がっています。

さらに、岡山県真庭市との交流を通じて農業体験研修や特別講義を行っていただいています。農園経営者の生の声を聴くことで、農業に関連する職業知識の幅の拡大と魅力を実感できる機会となっています。

5. イベント

1年生と2年生の合同イベントを行い、学年の壁を越えたコミュニケーションや協調性を養うことを目的として実施しています。

① ファーマーズマーケット（7月・10月・2月実施）

愛甲恒例のイベントであり、学生が育てた水耕栽培野菜の販売会です。販売野菜の選定から販売価格の決定、広報活動まで学生が協力しながら進めます。

② 愛甲農業祭（7月実施）

ファーマーズマーケットと学園祭をコラボさせたイベントです。野菜の販売以外に学園祭らしい企画も学生主導で行い、自主性と協調性、責任感を養います。

③ 愛甲マルシェ（毎月実施）

毎月2回から3回、近隣商店の軒先をお借りして行う野菜の販売会です。地域住民との交流の場にもなり、リピーターも回を重ねるごとに増えてきました。接客することで学生のコミュニケーション力がアップしてきます。

④ レクリエーション（10月）

秋の行楽シーズンに、1年生・2年生合同で様々な場所に出かける年1回のイベントです。行先は栗拾いやミカン狩り、BBQに舌鼓と様々です。みんなで楽しい時間を共有し、リフレッシュと仲の良さが深まる秋の一日を過ごします。

⑤ 学生発表会（9月・2月実施）

学生自らが、研究対象となる野菜を栽培しテーマを決めて取り組んだ成果の発表会です。発表資料の作成や当日の発表を通してプレゼンテーション力を養います。

6. 学生の生活支援

（1）学生支援の取組

① 学費の分納・延納制度

学費の納入期限までに納入が困難な場合は、事前相談のうえ分納、延納に応じています。

② 学生保険の加入

通学中や講義・実習中、学校行事中、インターンシップ中に発生した不慮の事故や災害について保険に加入しています。

③ 健康診断の実施

学校保健安全法に基づき、毎年6月までに健康診断を行っています。

④ 保健室の利用

保健室を設置して、けが等の応急手当や体調不良時に休める様にベッドを設置しています。

7. 学生納付金と就学支援

（1）システム栽培学科の学費

（単位：円）

年 度		入学金	授業料	施設費	教材費	合 計
1 年次	入学時	200,000	500,000	60,000	60,000	820,000
	後 期		500,000	60,000		560,000
	計	200,000	1,000,000	120,000	60,000	1,380,000
2 年次	前 期		500,000	60,000	60,000	620,000
	後 期		500,000	60,000		560,000
	計		1,000,000	120,000	60,000	1,180,000
合 計		200,000	2,000,000	240,000	120,000	2,560,000

① 選考料 30,000 円は、出願時に郵便為替証書にてお支払いいただきます。

② 上記の他、実習費として每期（1 年次：前期・後期 2 年次：前期・後期）60,000 円が必要です。

③ 実習時の実習着及び計測機器等（約 15,000 円）については、実習開始までに購入していただきます。

- ④ 各種検定試験の受験料（可能な試験をすべて受験した場合 約 30,000 円）は、実費負担となります。
- ⑤ 宿泊を伴う農業体験研修は、一部学生負担となります。

（2）入試制度と特典

入試制度としては、一般入試・AO入試・高等学校推薦入試・指定校推薦入試・社会人入試・外国人留学生入試があり、特典も準備しています。詳細はホームページの募集要項をご確認ください。

（3）奨学金と教育ローン等の取り扱い

- ① 日本学生支援機構奨学金制度
- ② 日本政策金融公庫

8. 学校の財務

（1）予算管理と監査

財務については、期中において学校の運営方針及び事業計画書に基づき、月別収支予算を作成し予算管理を行っています。また、執行状況については月別予算実績に基づき管理を行い、年1回の監事による監査を実施しています。

（2）財務情報の情報公開

財務情報をホームページにて情報公開しています。

9. 学校評価

自己点検評価報告書をホームページにて情報公開しています。

10. 国際連携の状況

留学生入試を制度化し、積極的に受け入れています。また、海外からの実習施設見学についても積極的に受け入れています。